信州がんセンター（緩和ケア）臨床研修カリキュラム

研修責任者 間宮 敬子

1. 研修科の特色

信州大学の緩和ケアは、緩和ケアチームの活動と緩和ケア外来とで構成されます。緩和ケアチームには年間300例近くの新規患者紹介があり、また、緩和ケア外来では年間のべ600～700例の症例が経験でき、がんだけでなく、心不全や神経難病など様々な症例を経験することができます。信州大学では現在日本で発売されている、オピオイドをすべて処方することが可能で、各々のオピオイドの特徴を具体的に学ぶことができます。

緩和ケアチームのメンバーは身体担当医師、精神担当医師（精神科医）、歯科医師、歯科衛生士、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどたくさんの職種から成っています。緩和ケアチームは、週に1回、多職種カンファレンスを行っており、カンファレンスに参加することにより、横断的医療を経験することができます。

研修責任者の間宮は、信州大学で唯一の日本東洋医学会の漢方専門医、指導医でもあり、患者の症状緩和に対する漢方治療も学ぶことができます。

2. 研修目標

一般目標 GIO

生命の危機に直面している疾患に罹患した患者またはその家族の全人的苦痛を同定し、多面的かつ包括的な評価を行い、治療計画を立てることができる。

他の職種と協力して、患者やその家族の苦痛を多面的に評価し、多職種で行えるアプローチ法を用いて、患者や家族の苦痛を和らげることができる。

行動目標 SB0

1. がん患者の痛みの評価、治療を提案することができる。
2. がん患者の痛み以外の身体症状の評価、治療を提案することができる。
3. がん患者の精神症状の評価、治療を提案することができる。
4. がんの治療による副作用を同定し、それに対する治療を提案することができる。
5. 家族ケア、遺族ケア（グリーフケア）ができる。
6. がん以外の疾患に対して緩和ケアを提供できる。
7. 横断的医療を経験し、推進することができる。
8. 症状緩和のための代替療法を提案することができる。

3. 研修方略

（研修期間が4週の場合）

1. (SB01) がんの痛みを評価することができる。
2. (SB01) がんの痛みの治療を提案することができる。
3. (SB01) 痛みの治療による副作用を評価し治療することができる。
4. (SB02) がん患者の痛み以外の身体症状を評価することができる。
5. (SB02) がん患者の痛み以外の身体症状の治療することができる。
6. (SB04) がんの治療による副作用を同定することができる。
7. (SB04) がんの治療による副作用に対して治療することができる。
8. (SB06) がん以外の緩和ケア対象患者の苦痛の評価ができる。
9. (SB03) 患者の気持ちのつらさに対応ができる。

10. (SB03) 患者のせん妄を評価し対応ができる。
(Advanced (4 週以上) の研修の場合追加される項目)
11. (SB06) がん以外の緩和ケア対象患者の治療を提案することができる。
12. (SB05) 家族ケアを行うことができる。
13. (SB07) 多職種のカンファレンスを企画し、司会をすることができる。
14. (SB05) グリーフケアを行うことができる。
15. (SB08) 症状緩和に対する漢方薬を挙げるすることができる。

4. 週間予定

	月	火	水	木	金	その他
午前	カルテチェック 多職種カンファレンス 総回診	カルテチェック コアメンバー カンファレンス 病棟回診	カルテチェック コアメンバー カンファレンス 病棟回診	カルテチェック コアメンバー カンファレンス	カルテチェック コアメンバー カンファレンス 病棟回診	必要に応じて デスカンファレンス 病棟でのカンファレンス
午後	総回診 症例カンファレンス (多職種)	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来	
17:15以降					17:30-18:00 研修医クルズス	

5. 評価

研修期間の評価

4 週以上の研修が不足なく行われていること。また、研修医は研修において経験した項目について随時 PG-EPOC に記録する必要がある。

研修中の評価

(形成的評価)

指導医は研修医が、毎日のカンファレンスに積極的に参加して、意見を述べられているかどうかを評価する。
指導医は研修医が、患者や家族と面談し、苦痛を傾聴し、評価し、的確なケアを提案できるかどうかを評価する。

指導医は研修医が、新規介入患者の医療面接を行い、カルテをまとめ、苦痛を評価し、ケアを提案できるかどうかを評価する。

研修後の評価

研修医は、当該研修科の研修期間の最終日まで、PG-EPOC の該当項目について自己評価を行う。
自己評価が終了次第、当該科の指導医、指導者 (看護師長) にその旨を報告し、評価を依頼する。
研修中に経験した疾病、症状について病歴要約を作成・提出し、速やかに指導医へ評価を依頼すること。

(形成的評価)

当該研修科の指導医、指導者は、研修医評価票に記載された評価を用い、フィードバックを行う。

- ・研修医評価票Ⅰに基づく評価
指導医・指導者（看護師長）が、A-1 からA-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。
- ・研修医評価票Ⅱ（1-9）に基づく評価
指導医・指導者（看護師長）が、1～9 の項目について評価する。
- ・研修医評価表Ⅲに基づく評価
指導医、指導者（看護師長）が、C-1 からC-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

臨床研修評価表Ⅰ～Ⅲを基に、責任指導医は臨床研修の目標の達成度判定票を作成し、当該研修期間における目標の達成状況を判定する。

（再履修を要する場合）

- ・研修期間中の欠席が多い場合
- ・研修態度が著しく悪い場合
- ・その他、再履修の必要性を研修科がみとめたもの

（研修科の総括的評価）

当該研修科を修了とするに不十分であると判断された場合、卒後臨床研修センター長と協議し、再履修とする。

※当科の臨床研修指導医は卒後臨床研修センターWeb サイトにて確認してください。

信州大学医学部附属病院 信州がんセンター緩和部門 緩和ケアセンター

■住所：〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話：0263-37-3562(直通) ■FAX：0263-37-3562

■E-mail：keiko@shinshu-u.ac.jp

■U R L：https://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/cancer-center/about/care-message.html

https://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/cancer-center/patient/palliative.html